

6 市民意見等の状況

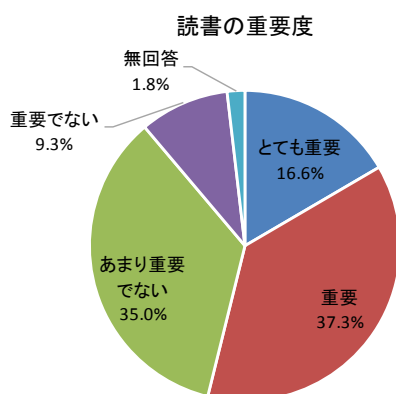
平成 28 年度に実施しました市民アンケート調査結果等については、次のとおりとなっております。詳細については、資料編に掲載しています。

(1) 市民アンケート調査結果

- ・ 調査期間 平成 28 年 8 月 1 日～同年 8 月 22 日
- ・ 回収サンプル数 869 件

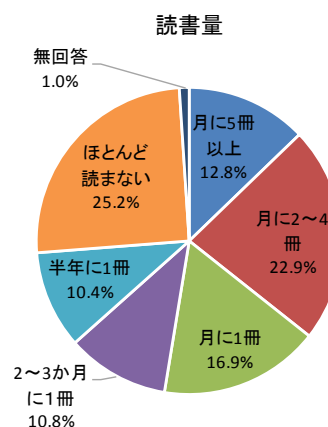
① 読書に関する状況について

ア 読書の重要度



重要度が高いと考えている層が、5 割以上を占めました。

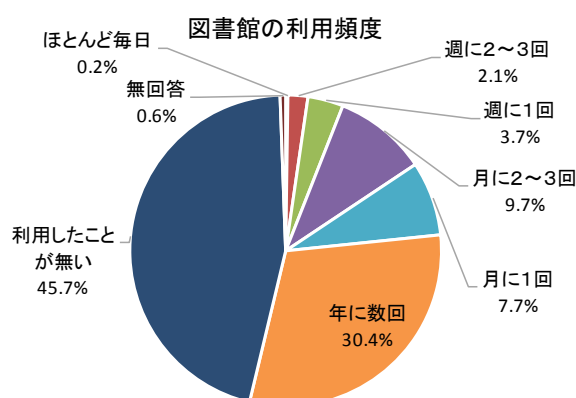
イ 読書量



月 2 冊以上読む人と、ほとんど読まないとがそれぞれ 4 分の 1 以上あり、ばらつきが見られました。

② 現在の中央図書館（児童図書室を含む）について

ア 利用頻度



全体的に図書館利用経験が、少ないことが分かりました。

イ 利用目的（上位 5 つの回答）

利用目的	件	割合
図書を借りるため	331	70.1%
気分転換、リフレッシュするため	161	34.1%
館内での図書、新聞等を閲覧するため	154	32.6%
宿題、勉強をするため	111	23.5%
子ども等の付添いのため	68	14.4%

図書を借りる以外にも、特に目的が無くても気軽に行ける場所という捉えられ方をしていることも伺えます。

ウ 利用しない理由(上位5つの回答)

利用しない理由	件	割合
本は購入して読んでいる	169	42.6%
本をあまり読まない	132	33.2%
忙しくて行く暇がない	123	31.0%
自宅や学校、勤務先から遠い	92	23.2%
場所や利用の仕組みが分からない	81	20.4%

エ 充実してほしいもの(上位5つの回答)

充実してほしいもの	件	割合
居心地の良い空間	450	51.8%
書籍、雑誌等の充実	396	45.6%
交通の利便性・駐車場の充実	270	31.1%
インターネットやWi-Fi環境の充実	223	25.7%
書籍、雑誌、資料等の探しやすさ	211	24.3%

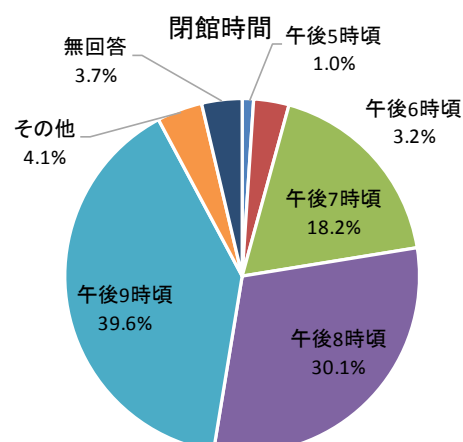
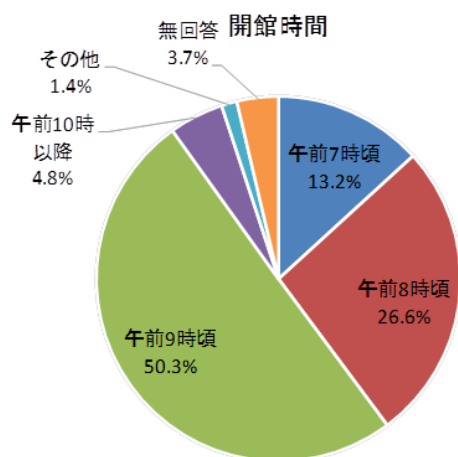
③ 酒田コミュニケーションポート（仮称）について

ア ライブラリーセンターで何ができれば良いか（上位5つの回答）

何ができれば良いか	件	割合
目的がなくても気軽に立ち寄れる	429	49.4%
くつろぎながら読書ができる	286	32.9%
飲食ができる	273	31.4%
仕事、学校帰りに気軽に立ち寄れる	258	29.7%
静かな部屋で調査や自習ができる	211	4.3%

多様な使われ方が、求められていると想定できます。

イ ライブラリーセンターの開館時間・閉館時間



ウ 広場で何ができれば良いか
(上位5つの回答)

何ができれば良いか	件	割合
休憩ができる	430	49.5%
飲食ができる	424	48.8%
イベントの開催	410	47.2%
待ち合わせや談話ができる	361	41.5%
緑を感じることができる	328	37.7%

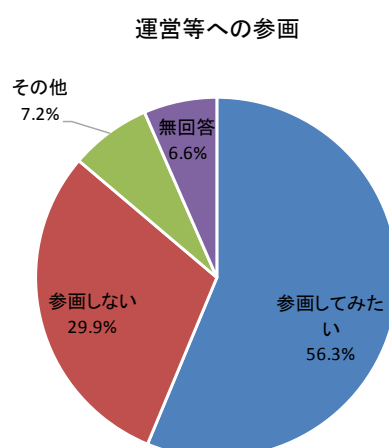
エ 駅前への交通手段は何ですか
(上位5つの回答)

交通手段	件	割合
自動車	603	69.4%
自転車	181	20.8%
バス	100	11.5%
徒歩	84	9.7%
電車	38	4.4%

オ 観光情報センターに求めるサービス (上位5つの回答)

求めるサービス	件	割合
休憩ができる (カフェ等を含む)	418	48.1%
お土産品の充実	380	43.7%
インターネットや Wi-Fi 環境の充実	190	21.9%
ライブラリーセンターの地域情報資料を活用しての情報発信	137	15.8%
バーチャル映像等による歴史、文化、自然の紹介	135	15.5%

カ イベント企画や施設運営等への参画



「その他」でも、内容による、時間が合えば、という回答が多くあり、関心は高いことが伺われた。

④ クロス集計分析

ア 図書館を利用したことが無い市民の分析

- ・読書の重要度や読書量が全体より低く、図書館を利用しない理由も本を読まない、購入する割合が高い。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについては、蔵書の充実より、気軽に立ち寄れる、飲食ができるという回答割合が全体より高い。
- ・イベント企画や施設運営等への参画も「してみたい」という回答が多く、きっかけさえあれば、参画する意欲はあると考えられる。



- 蔵書の充実では、利用者には結びつかない層である。
- 気軽に立ち寄れるきっかけ（イベント、居心地の良い空間等）があれば、利用者になる可能性がある。
- イベント企画や施設運営等に参画する意欲が高いため、その場づくりが利用者となるポイントである。

イ 中学生、高校生、専門学校生・大学生及び 20 歳代の分析

- ・年齢が上がるにつれ、読書の重要度が低くなっている。読書量では、ほとんど読まないという回答が、特に高校生に多く見られました。
- ・図書館を利用しない理由として、アクセスの悪さ、時間がない、本は購入して読んでいるという回答が高くなりました。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについては、「目的がなくても気軽に立ち寄れる」「飲食ができる」が共通して支持がありました。
- ・イベント企画や施設運営等への参画も「してみたい」という回答が多く、特に、10 歳代は、世代間で最も高く、参画する意欲はあると考えられる。



- 中学生から高校生への過程で、読書の習慣を持続させる取組が必要である。
- 蔵書以外の施設の魅力を持たせる必要がある。
- 施設へのアクセスの改善が求められる。
- 飲食ができ、目的がなくても立ち寄れる気軽さづくりが、若者たちの居場所となるためには必要である。
- イベント企画や施設運営等に参画する意欲がとて高いため、その場づくりが利用者となるポイントである。

ウ 午後 9 時頃の閉館希望者の分析

- ・年齢では、10 歳代～50 歳代で支持が最も多くなっています。60 歳代では 2 番目、70 歳以上では 3 番目に下がる。

- ・職業別では、午後9時頃と回答した人の37.5%を会社員が占める。
- ・図書館の利用頻度が低い人が、回答者の78.8%を占める。
- ・図書館で充実してほしい機能として、「利用しやすい開館日・開館時間」「インターネットやWi-Fi環境の充実」と回答した人の半数以上が選択している。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについて、「飲食ができる」と回答した人の約半数が選択している。



- あまり利用していない層が来館するきっかけの一つとなり得る。
- 午後9時頃まで開館していれば利用しやすいと感じる人が多く、インターネットやWi-Fiが使える、飲食ができれば、さらに利用動機が高まる。

エ 図書館の定期的利用者（月に2～3回以上利用すると回答した方）の分析

- ・女性が70.6%を占めている。年代は40歳代（23.5%）、10歳代（22.8%）、60歳代（13.2%）の順に多くなっている。
- ・読書の重要度が高いと考えている人が87.5%、本を月に2冊以上読む人が72.1%を占めている。図書館の利用目的も「図書を借りるため」が84.6%、図書館で充実してほしい機能も「書籍、雑誌等の充実」が62.5%に上る。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかでは、「静かな部屋で調査や自習ができる」「くつろぎながら読書ができる」の回答割合が全体より5ポイント強上回っている。
- ・一方で、図書館で充実してほしい機能で「居心地の良い読書空間」、ライブラリーセンターで何ができれば良いかで「目的がなくても気軽に立ち寄れる」が「くつろぎながら読書ができる」よりも10ポイント高い。



- 本や読書に関するニーズが高い層である。
- 資料の充実、静かな読書環境が図書館に求められている。
- 現在の図書館でもニーズには、一定程度応えていると考えられるが、この層からも居心地の良い空間、目的がなくても気軽に立ち寄れる雰囲気なども求められていると言える。

⑤ アンケート結果からの考察

以上の結果を踏まえ、酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画を策定するあたり、検討するにあたってのポイント（視点）は、次のとおりです。

- 図書館利用経験が全体的に少ない。

- 「場所や利用の仕組みが分からない」という市民も2割を超えている。
- 観光の面では、お土産品の充実の声が多い。
- 駐車場の充実、アクセスの改善を求める声が多い。
- 子ども連れや高齢者、障がい者が利用しやすい、若者が集えるような施設にしてほしいという回答が多い。
- イベント企画や施設運営等への参画意欲が高い。



- 新しい機能（カフェ、飲食可能、Wi-Fi環境等）をもつライブラリーセンター
- 施設の積極的なPR活動、情報発信の充実
- お土産品の充実の声が多く、地元企業等と連携した販売方策の検討
- 公共交通の充実の検討
- 開館時間の延長
- 対象別（世代別等）の方策、住み分けを意識した施設づくり（ゾーニング）の検討
- 市民参加の場面を組み込んだ施設の運営のあり方の検討

(2) 高校生アンケート調査結果

- ・調査期間 平成28年8月25日～同年9月1日
- ・回収サンプル数 694件

① 通学途中や休みの日等に、利用しやすい、利用したくなる駅前公共施設となるため、必要な機能、スペース、設備、サービス等（上位5つの回答）

必要な機能等	件	割合
インターネットやWi-Fi環境の充実	500	48.1%
自由に飲食できるスペースがほしい	405	43.7%
勉強できる場所の充実	264	21.9%
友人と雑談しながら、本を読める場所	182	15.8%
屋外でも休憩できるようなテラスやベンチの設置	176	15.5%

※マンガをたくさん置いてほしい（男性の回答で上位）



図書資料や読書スペースの充実 < 交流・滞在型の機能

② 主な自由意見

- ・カフェが欲しい（価格設定や雰囲気で中高生が入りやすいようなカフェ）
- ・買い物ができる場所や友人と遊べる場所が欲しい
- ・静かにするスペースと賑やかにできるスペースを分けて欲しい（目的によって使用するスペースを変えたい）

一人でゆっくり静かに過ごす < 友人等と交流できる場所

図書資料や読書スペースの充実に直接つながるものよりも、交流・滞在型の機能を求める傾向が強く見られました。

唯一、属性比較で傾向が違ったのが男性で、「マンガをたくさん置いてほしい」が上位5つの中に選択されています。

自由意見の傾向からは、一人でゆっくり静かに過ごすよりも、友人等と交流できる場所を求めていることがわかりました。

(3) 市民ワークショップ結果

回	テーマ	日 時	場 所	参加者数
1	新しい施設に必要な機能、欲しい機能を考えよう	・平成28年9月22日（木） ・9：30～12：30	交流ひろば 1階	30
2	酒田らしさを施設に活かそう	・平成28年10月2日（日） ・9：30～12：30	同上	24
3	新しい施設の使い方を考えよう	・平成28年10月22日（土） ・13：00～16：00	同上	19



① 第1回のまとめ

「新しい施設に必要と思う機能、欲しいと思う機能」について、「ライブラリーセ

ンター」「観光情報センター」「カフェ」「広場・駐車場・バスベイ」の4つのカテゴリごとにアイデアを書き出し、ディスカッションを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

○ライブラリーセンター

機 能	アイデア
勉強・仕事	・ホワイトボード付の自由に使われる会議室、打合せスペース ・ビジネス支援コーナー（就業や企業に役立つ情報と書籍）
サービス	・本の宅配貸し出しサービス、郵便で返却できる ・他図書館の本も借りられるシステム ・お勧めの本を紹介してくれるサービス ・小中学生の宿題や自由研究のサポートをしてくれるボランティア ・コンシェルジュの設置
施設	・快適なトイレ ・ちょっとした買い物ができる機能を併設 ・固定イスでなく自由に変えられる小スペース

○観光情報センター

機 能	アイデア
ソフト	・Wi-Fi 機能
情報	・観光情報誌にない観光情報の提供 ・観光ガイドの強化（ガイド養成） ・郷土芸能、文化、歴史がわかる展示施設
買い物	・地酒を試飲できてその場で購入できる ・地元食材、郷土料理の実演販売 ・お土産品（食品）を販売しているスペース

○カフェ

機 能	アイデア
メニュー	・地産地消のメニュー
イベント	・地元の飲食店とのコラボイベント開催
使い方	・持ち込みオーケー ・機材（ホワイトボード等）を貸し出すサービス ・Wi-Fi の導入 ・平日の仕事後も使える営業時間 ・携帯やノートパソコンが充電できる
雰囲気	・小さい子供と気軽に入れる ・ゆったりくつろげるスペース ・ペットを連れて行けるカフェ ・若者が集まる、かわいい、きれいと思えるような商品やデザイン ・昼と夜の営業で違った雰囲気を出してほしい

○広場・駐車場・バスベイ

機 能	アイデア
広場	・Wi-Fi の導入 ・夜はミニライブできる場所 ・小さい子供が遊べる ・季節の花が咲く ・バーベキューやスポーツのできるスペースの確保 ・芝があり、転がって遊べる
駐車場	・駐車場のマークの表示わかりやすく ・マンション駐車場と外部から駐車する場所を分ける ・低料金（無料）で広く、停めやすい駐車場 ・雨風に当たらないで施設に行けて、融雪設備がある
バスベイ	・電車、バスの出発前の全館アナウンス ・高齢者や体が不自由な人も便利に誰でも使えて見やすいバス停の時刻表 ・休憩スペース

② 第2回のまとめ

「酒田のアピールポイント」について、「食」「自然」「歴史・伝統」「観光スポット」「その他」の5つのカテゴリごとにアイデアを書き出し、アピールポイントを施設に活かす方向性として、「情報発信」「イベント」「デザイン」という3つのテーマでまとめを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

テーマ	実施場所	アピールポイント
イベント	ライブラリーセンター	・庄内の四季の映像を流し、山居倉庫、北前文化（主に酒田の歴史）について知るイベント ・本間家や光丘の歴史的発進、地域文化人の紹介、地域文化のデジタル化による紹介 ・光丘文庫のできた日を酒田市立図書館の記念日としてイベントを開催。
	観光情報センター	・施設に出張してもらう出張観光
	広場	・子供たちの学びと結び付けられるような自然体験型イベント ・酒田の特産フェア（広場で屋台（ラーメンや芋煮など）を出したり、民族芸能のステージを作ったり、祭りのような雰囲気です）
	その他	・外国人向けイベント
情報発信	施設全体	・映像で食を発信（五感で感じる） ・サイネージやプロジェクションマッピングで季節毎の情報発信 ・屋上デッキを設ける（視覚利用しての情報発信） ・SNS を利用

	ライブラリーセンター	・酒田市に関する観光図書センターの設置
	観光情報センター	・酒田見所カレンダーの掲示 ・アウトドアレジャー窓口への誘導 ・タブレット端末の設置
	広場	・祭りやイベント(ラーメンや酒など)の拠点となる場所にする
	駐車場・バスベイ	・駐車券にQRコード(市のHPやガイドなどにアクセスできる、有料広告で収入確保)、利用回数に応じての割引サービス ・サイネージでの乗換案内
デザイン	施設の外観	・吉野弘の詩を壁に書いたり、土門拳の写真を貼ったり、酒田の著名人の作品をどこかに取り入れる ・屋根を山並みや波に見立てたデザインにする ・酒田の名物・名産(北前船等)をモチーフにしたモニュメントの設置
	内装	・一部に木の感触を味わえるような東屋を作る
	企画	・酒田を知るコーナーを設置する(最上川や山居倉庫、ラーメン等)

③ 第3回のまとめ

①必要と思う場所・機能②なぜ必要なのかの理由③必要と思う場所や機能の具体的な使い方、を個々に書き出し、それらアイデアを「学びの場」「子育ての場」「情報発信の場」「交流の場」「その他」というテーマでグルーピングし、さらに具体的な場をイメージしながらまとめを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

テーマ	アイデアのまとめ
学びの場	・酒田の歴史や魅力について深く知れて、酒田を好きになれる ・光丘文庫に残っている本の閲覧とアーカイブ(本の説明、DVDの録画のアーカイブ)ができる ・学生が時間を有効利用できて使いやすい場にする ・さまざまな読みたい本のニーズに応えられる ・「ひとり」と「みんな」を自在に使える(一人で集中する、みんなで作業するスペースの棲み分け) ・生活の利便性の向上を学べる場
子育ての場	・児童+ジュニアコーナー(おしゃべり、泣いても気にしないで利用できる場) ・親子連れが気軽に立ち寄れて、どちらも楽しめる ・「公園デビュー」に代わる「〇〇デビュー」ができる ・小さい子が安心して遊べる場 ・子育て情報を共有し相談できる場
情報発信の場	・情報発信できる掲示板(サイネージ) ・人を集めたい、発信したい人のための部類分けをして、明確な発信ができる

	・酒田らしさを発信する（市民にも！観光客にも！） ・観光情報センターとの連動 ・地元と来訪者の口コミが行き交う
交流の場	・有料の会議室、学習室（個室）の設置 ・軽食の持ち込みができる ・読書だけに限らず、多目的に使用できる ・おしゃべりができたり、くつろげたりできるスペースの設置（観光客も市民も） ・おいしくて、おしゃれで、落ち着けるカフェの設置 ・集客イベントのできる場＋駅前の「交流」の拠点
その他	・多様なニーズに応える場（サイレントルーム、オープンな学習スペース） ・返却ポスト（ドライブスルー、駅返却ポスト etc.） ・観光みやげを買える所（簡単な情報の発信） ・「いつ」でも「誰」でも使いやすい（例えば、夜間返却、荷物預かりサービス） ・夜遅くまでの営業時間

(4) 高校生ワークショップ結果

県立酒田光陵高等学校生徒によるワークショップを、東北公益文科大学学生の協力のもと、平成 28 年 10 月 7 日に行いました。

高校生が図書館に行かない理由として、「話せるスペースがない」「まじめな場所、堅苦しいというイメージ」「求めている本がない（漫画、新刊本など）」「飲食ができない」「携帯が使えない」「遠い」などの意見がありました。

図書館に何があったらよい（行く）かについては、「携帯が使える、充電ができる」「Wi-Fi の設置」「飲食ができる。そのための売店やカフェ」「世代に合わせた本の充実」「図書館自体をおしゃれに」「酒田の特産品を使った地産地消する図書館」「話せる場所と静かな場所を分ける」「休める場所、個室」「図書館で欲しい本を見つけたら本屋ですぐに買える」「運動ができる」「買い物ができる」「映画館」「文具店」「音楽が流れている」「イベントスペース」「動物と触れ合える」など、多彩なアイデアが出されました。



(5) 各団体等意見交換結果

○意見交換実施団体等

- ・子育てママさん
- ・松陵学区コミュニティ振興会
- ・読み聞かせボランティア（あさの葉会）
- ・障がい者福祉会
- ・酒田商工会議所情報 サービス部会
- ・東北公益文科大学 学生
- ・読み聞かせボランティア（絵本の部屋）
- ・点字読書会
- ・（社）子どもの読書サポートアシード
- ・市老人クラブ連合会
- ・コワーキングスペース__アンダーバー利用者、コンシェルジュ

施 設	カテゴリー	意見（一部抜粋）
ライブラリーセンター	児童図書室について	・子どもが騒いでも大丈夫なような雰囲気だといい。 ・ドライブスルーみたいに車から降りずに本を返却できると便利。 ・子供が図書館に本を返しに行ったら、お話をしているのに気付いて途中で参加できる動線を確保したい。 ・本棚などを置いていないシンプルな読み聞かせ部屋だと、子供が目移りせずに集中できる。
	空間、動線関係	・静かに本を読みたい大人と、子供のお話会をするスペースの住み分けをうまくしてほしい（ソフトバリエーションが理想）。 ・（視覚障がい者のための）凸凹が少ない室内用の誘導ブロックを、人がよく通る入口やトイレの近くに導入を検討してほしい。 ・多目的な部屋がほしい（音訳図書の読み聞かせや研修室などに利用）。
	蔵書・配置	・絵本と小説の境目がわかりづらいところがある。 ・録音図書の充実。視覚障がい者だけでなく、目が悪くなって活字を読むのがつらい高齢者など様々な立場の人に活用することができる。 ・作家ごとの本の配列だと探しやすい。
	サービス	・図書館の仕事は専門職であり、サービス業のため、人材の充実や教育が大事だと思う。魅力的な本を魅力的に紹介できる人が必要。 ・飲食スペースがほしい。 ・借りた本が気に入ったら購入できるといい。 ・司書や利用者のおすすめ本を紹介する。 ・貸出本のランキングコーナーを設置する。 ・利用者の調べ物のサポートを充実する。 ・本の作者のトークショーがあるといい。 ・ホワイトボード等に企画展示の紹介をしたり、積極的にポップを作成したりする。

	連携	・流行っている本を学校図書と市立図書館のどちらかが持つという連携があればいい。 ・ブックスタートの取り組みをしているが、家で読み聞かせ（家読）や図書館、学校での取り組みも大事になってくる。 ・公共図書館と点字図書館が連携して、点字図書等の情報提供をしてもらいたい。 ・酒田市にゆかりのある人の本を観光情報センターにも置く。
	その他	・いまの利用者の現状は、文化センターで活動する人がついでに図書館も利用するという人が多いので、駅前に移行することでの人の流れや利用の便が変わる不安や戸惑いがある。 ・（視覚障がい者のために）音声案内があればと思う。 ・（聴覚障がい者のために）字幕が写る電光掲示板が欲しい。図書館を利用している聴覚障がい者多いが、本に夢中になっていると周りの変化に気づきにくい。災害等が起こった時に電光掲示板で文字が光ってお知らせしてくれるといい。 ・図書館は高齢者の居場所という役割もあるし、現在の図書館を好きで利用している人も大事にしてほしい。 ・SNSの積極的な活用（司書紹介、イベントや利用サービスの周知等）をする。 ・HPで司書の自己紹介ページ（顔や専門分野、好きな本等）を作り、利用者が行きやすくなるよう顔が見える図書館になってほしい。
観光情報センター	観光・食	・酒田は海鮮という割に、海鮮市場に行くまでが大変（交通手段も含めて）。駅前で酒田の海産物を取り入れたお弁当の販売があるといい。
	連携	・観光情報センターで、他の県の観光情報誌を置くようにしてほしい。 ・宿泊施設の空き状況の共有化されるといい。
カフェ	雰囲気	・子連れの人が利用するのであれば、庶民的な親しみやすいカフェが併設されるといい。
	メニュー	・地産地消のメニューを出してほしい。
駐車場・バスベイ・広場	駐車場	・駐車スペースは広く取ってほしい。
	交通	・車が無い人でも行きやすい交通手段が欲しい（バス等） ・電車やバスの時刻等を知らせる電光掲示板があるといい。
その他	空間	・高校生がお金を使わずに過ごせる場所がほしい。 ・フリースペースや運動ができるスペースがほしい。

7 基本理念

酒田コミュニケーションポートは、これまで培われてきた中央図書館と駅前観光案内所のサービス機能やネットワークを引き継ぎつつ、本市の新しいにぎわいと交流の創出拠点、観光起点として、酒田の特長＝酒田らしさを活かし、また、それが感じられる場所として整備し、運営していく必要があります。

本市では、西廻り航路が整った江戸期には、海上交易と最上川舟運の要として、ヒト・モノ・コトが行き交い、独自の湊町文化を形成しました。また、世界に誇れる山（鳥海山）、川（最上川）、海（日本海）、島（飛島）と豊かな自然が彩っており、それに育まれた豊富な食材や風土があります。

その酒田が有する知（地）的資源をライブ発信し、人が集い、出会い、交流することで新たな「価値」を創出します。

訪れる人にとっての情報発信源の機能を果たすとともに、「進取の気性（精神）」「公益の心」を持つ人財の形成の場としても機能させていくことを目指します。

酒田コミュニケーションポートの基本理念を、次のとおりとします。

知（地）のアリーナ

～ヒト・モノ・コトが行き交い、多様なコミュニケーションが創出され、知（地）的好奇心がインスパイア¹されるみんなの居場所～

○市民の暮らしの質（QOL）の向上

○酒田の価値向上

アクションプラン（イメージ）

◆「知」のライブパフォーマンス

- 東北公益文科大学まちなか講座
- 日本海総合病院ヘルス・メディカル講座
- 著作者や酒田ゆかり人のミニトーク
- ライブラリアンによるお薦め本紹介
- 慶応義塾大学先端生命科学研究soまちなか講座 など

◆「地」のライブパフォーマンス

- 駅前マルシェ
- 食べマルシェ（酒田フレンチ・酒田のラーメン）
- 各地伝統芸能ストリートライブ
- ジオパーク、日本遺産関係まちなか講座 など

¹ インスパイアとは、奮い立たせる、駆り立てる等の英訳です。

8 基本方針

酒田コミュニケーションポートの基本方針を、次のとおりとします。

学び、成長する場

- 地域を知り、学び、好きになる。
- 市民の知的好奇心に応え、支援し、暮らしを豊かにする。

- ・市民が、地域の歴史や文化等を学び、自らのアイデンティティを再認識し、本市の魅力、可能性を見出し、誇りや郷土愛を高め、学びを通じての自立する人を育みます。
- ・市民の日々の暮らしを豊かにする文化的場所として、知的好奇心に対して支援していきます。

交 流 の 場

- 日常のライフシーンに応える。
- 市民も、観光客も寛ぎ、交わる。

- ・読書、打合せ、遊び（交流）、食事、学習、電車待ち、バス待ち、人待ち、イベント、発表等、日常の多様なライフシーンが展開される場を目指します。
- ・本市が持つ文化等の地域資源を活かすとともに、駅前という立地特性を最大限に活かすサービスを行い、にぎわいと交流の創出につながる役割を果たします。

情報発信の場

- 庄内地方、酒田らしさを積極的に発信する。
- 明確な情報が拡散、口コミで広がる。

- ・交流人口の活性化を目指すためには、酒田の情報だけでなく、庄内、広域連携圏も含めた情報発信（観光オリジナル・ストーリー等）を積極的に行い、相乗効果を図ります。
- ・情報化社会において、相手に届く効果的な情報発信に取り組みます。

子育ての場

- 親子で気兼ねなく、安心し、利用できる。

- ・酒田の宝である子どもの健やかな成長は、市民の願いです。読書を通じて子どもの感性、表現力、想像力等を育て、また、子育てする親が安心して利用できる場としていきます。

9 機能別サービス、整備方針

(1) ライブラリーセンター

① サービス、整備方針

- 幅広い市民からの利用拡大（掘り起こし）を図るため、これまで十分でなかったサービスの充実や新しい取組みを進めていきます。
- 次代を担う若者の場所づくりの充実を図ります。

これまで培われてきた中央図書館のサービス機能やネットワークを引き継ぎつつ、幅広い市民からの利用拡大を図るため、魅力ある機能の充実を図ります。

市民アンケートでは、図書館を利用したことがない、利用機会が少ない市民が多くいることがわかりました。ライブラリーセンターは、酒田コミュニケーションポートの中核となす機能であり、「資料・情報、空間、スタッフ」という資源を活用しながら他の機能間との連携を広げていくことで、施設全体の活性化を図る重要な役割を担います。

図書館を使ったことがない、利用経験が少ない市民に対しては、ライブラリーセンターからの情報発信を充実させるとともに、職員が積極的に「外に出ていく」ことで、サービスを見せていく姿勢が求められます。

これまで十分に応えられてこなかったサービスへの対応も必要です。市民が持つ課題解決の支援、青少年の居場所づくりや交流の促進、郷土の貴重な資料の活用・PR、学校、大学、コミュニティセンター、市民団体、ボランティア、庁内各課等との連携によるサービス展開などが必要です。

ア 学びたい、知りたいに応え、地域課題の解決への支援を担う知の拠点

- ・市民の学びたい、知りたいという知識の深堀や知的好奇心、生活・ビジネス・学習などの課題解決に応えていく拠点として、資料の収集技術の向上はもちろんのこと、各種講座やレファレンスサービス²の充実を図ります。
- ・職員のレファレンス能力の向上を図り、レファレンス専用のデスクを配置します。サービスの仕組みなどを積極的に周知していきます。
- ・日常的な調べものや、調査・研究に資するオンライン・データベースの導入・活用も費用対効果を見極めながら検討します。
- ・資料・情報だけでなく、専門機関や市内の人材等、ニーズに合った情報提供を行います。

² レファレンスサービスは、知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すための案内をして、資料提供や情報提示により調べものの手助けをするサービスです。

- ・受け身の姿勢でなく、地域・市民の課題解決のためにライブラリーセンターが果たせることができないか常に考え、関係機関と協力しながら、まちづくり・ひとづくりの支援をしていきます。
- ・ライブラリーセンターの施設内に留まることなく、館外、地域に飛び出してもサービスを提供していきます。学校、大学、コミュニティセンター、市民団体、ボランティア、庁内各課等との連携による資料情報の提供、講座の開催や、来館が難しい方々や遠方への出張講座等が考えられます。

(参考事例)

長崎県立図書館のがん情報コーナー。市民からがん情報へのニーズが高いことを捉え、専用の資料コーナーを設置するとともに、地域の医療機関や行政等と連携して、講座や相談会などの場を提供しています。



イ 若者から高齢者までのあらゆる層の市民が集い、利用し、活動する場所づくり

- ・自習（学習室）やグループ討議・活動が行えるスペースを設けます。ラーニング・コモンズとしても利用が出来る機能の導入も検討します。
- ・持ち込みパソコンやモバイル端末を利用できるスペース、Wi-Fi 環境を整備します。
- ・休日はもとより、平日でも日中は高齢者や子育て世代が、夕方は地元小学生、中学生、高校生が、夜は大学生や仕事終わりのビジネスマン等とそれぞれの利用層・時間軸に応じた講座等の事業を展開していきます。
- ・本に囲まれた空間を活用し、英語学習、音楽会、映画会（パブリックビューイング）、朗読会、展示会、活動成果発表、多世代間交流など、刺激を受け、出会いと交流する舞台として、積極的に市民に開放していきます。また、多くの団体に利用してもらうよう、積極的な広報を行っていきます。

(参考事例)

東京都千代田区立日比谷図書文化館の特別研究室。「都心のセカンドオフィス」をコンセプトに、静かに集中できる空間とし、コンセントと有線 LAN 付きの学習席を有料で利用できます。館内では無線 LAN も利用できます。



- ・施設規模が限られるため、例えば、グループ活動室が、学習室や図書館ボランティア活動室、対面朗読室等を兼用したり、閲覧スペースが埋まっている場合は、学習室を開放したりと、曜日、時間帯、来館者数等に応じて、臨機応変に可動するハイブリット型の施設運営を目指します。
- ・学習室は、夏休みや、テスト前になると、不足することが考えられます。そのため、周辺その他公共施設の情報提供を行いながら、学習サポートを行います。
- ・施設内の広場・カフェや、民間施設等と連携しながら、作家のトークショーや本にまつわるイベント等を行います。

ウ 市民ニーズ等に的確に対応していくライブラリアン³の育成

- ・社会の変化や市民ニーズに的確に対応し、前例主義にとらわれず、常にチャレンジするライブラリアンの育成を図ります。
- ・ソーシャルネットワークサービスの積極的な活用などにより、市民に顔が見え、信頼してもらえるライブラリアンを目指します。
- ・ライブラリーセンターの役割は、専門的で多岐に渡るため、能力開発のための研修機会の充実を図り、ライブラリアンの質の向上に努めます。

エ 自分のスタイルにあった読書空間、居心地の良い空間の提供

- ・他の機能間の連携とあわせて、静かな場所、BGMのある空間、少しにぎやかでも良い場所等、それぞれの自分にあった場所を見つけ、利用できる空間を効果的に配置します。
- ・蓋付きの飲みものを持ち込み可能にします。
- ・バスや電車の待ち合わせとしても利用してもらえます。

オ 地域を知り、好きになる郷土愛を育むサービス

- ・本市の歴史・文化、良さ、人を知り、市民としての郷土愛を醸成するよう郷土・地域資料の収集や情報発信を積極的に行います。
- ・本市ゆかりの作家・偉人等に関する資料、時事や季節の話題、歴史・文化・自然・お祭りなどの年中行事、市内及び施設内で行われるイベント、観光情報、行政サービスの紹介等、展示を通して多様な情報提供を行います。専用展示スペースの配置も検討していきます。
- ・光丘文庫の所蔵資料は、地域を知る重要な資料があり、また、貴重な文化財でもあります。ライブラリーセンターで、一部資料の展示等による積極的な

³ ライブラリアンとは、図書館員の英訳です。

紹介を行い、所蔵資料に関する照会や取次ぎができるようにします。所蔵資料のデータベース化を進めます。

- ・地域資料のより幅広い活用を図るため、資料のデジタル化を図り、調査研究、観光情報発信や学校教育の教材、本市のブランディング等に資する取り組みを検討します。

カ 児童・子育て世代へのサービスの充実

- ・これまで子ども読書活動推進計画に基づいて実施してきたブックスタート事業、読み聞かせ、読書手帳等の取り組みを、引き続き推進します。
- ・読み物だけでなく、児童の調べ学習に対応できる資料・情報の充実を図り、学校とも連携して児童の調べものに対する指導・支援を積極的に行います。
- ・児童が本とふれあうプログラムやイベントを展開し、放課後の居場所づくりを目指します。
- ・市内学校、幼稚園、保育所、子育て支援施設等、関連機関と積極的に情報交換し、子育て支援情報、子どもの読書環境の充実を図ります。
- ・施設内の広場・カフェと連携し、親子で気兼ねなく本を読んだり、情報交換できる場の環境をつくれます。
- ・授乳、おむつ交換の場所を設置し、親子で落ち着いて絵本の読み聞かせができる等子育て世代が気兼ねなく使え、交流できるようにします。

(参考事例)

大分県豊後高田市立図書館の「おはなしのへや」。適度に仕切られた空間で、定期的におはなし会を実施します。行事がない時は、子ども同士や親子連れで思い思いに過ごせる場となっています。



- ・読み聞かせできるスペースを専用で設けます。他スペースとの防音にも十分配慮します。
- ・読み聞かせや紙芝居の実演、お話しの語り等について、市民ボランティアの参加も積極的に促しながら、推進していきます。
- ・子ども用トイレを設置します。
- ・児童開架は児童の体格を考慮し、書架の高さや配架方法を工夫します。

キ 酒田の玄関口としての案内情報の強化

- ・観光情報センターとは、空間的にも隣接し、資料などを共有することで、図書館の地域資料やレファレンス機能を観光案内に活かします。
- ・観光情報センターと隣接するエリアには、観光に関する地域資料、雑誌、ガイドブック等を配架し、情報発信します。
- ・季節や時事、郷土の行事等に応じたテーマ展示を積極的に行い、効果的な情報を発信します。例えば、映画やドラマの撮影等で話題になった場合、原作や作家紹介、登場人物に関する資料・情報など、多角的な情報提供を行います。
- ・地域資料をデジタル化し、サイネージやモバイル端末で見られるようにすることで、楽しめる観光に活用・演出します。
- ・ソーシャルネットワークサービスを積極的に活用し、施設からの情報発信を充実させます。

(参考事例)

愛知県大府市のおおぶ文化交流の杜図書館における、「デジタル紙芝居 おおぶの民話」絵地図。地元に伝えられている民話を紙芝居にしたものをデジタル化し、絵地図から検索して誰にでも気軽に見られるようにしています。



ク 学校図書館との連携の強化

- ・市内の小学校、中学校、高等学校と連携を図るとともに、学校図書館に対する支援を行っていきます。
- ・子どもの読書活動推進、調べ学習等授業の支援のため、関連する資料を収集するとともに、学校図書館運営をサポートできる人材の養成に努めます。
- ・児童・生徒による図書委員活動を支援します。ライブラリーセンターの使い方講座・職場体験や、ビブリオバトルの場の提供などを行っていきます。

ケ 分館、東北公益文科大学等との連携の強化

- ・分館との間の資料の流通を強化し、新しい図書を定期的に供給します。
- ・東北公益文科大学図書館と連携し、大学が専門とする分野の資料やレファレンスの相談を受けられるようにします。

- ・図書館ボランティアと連携したサービスを行います。また、図書館ボランティアが維持していけるよう活動スペースの提供のほか、人材育成の支援を行っています。
- ・県立図書館、県内市町村立図書館及び国立国会図書館等との連携を図り、相互貸借、レファレンス事例共有等を行うことで、市民サービスの一層の向上を図ります。
- ・他の社会教育施設、関係行政機関等との連携を図ります。
- ・再開発区域内の民間施設と連携し、本の持ち込みや相互に情報発信するなどの検討を行っています。

コ 高齢者・障がい者サービス

- ・拡大読書器を設置します。
- ・音声や触知図、見やすい配色等によるわかりやすいサインや案内及び筆談用具、拡大鏡を備える等、利用のバリアをなくすよう努めます。
- ・高齢者、障がい者が資料を探しやすく、閲覧しやすいよう工夫します。特に障がい者に対しては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」に基づき、合理的な配慮をする必要があることを踏まえ、サービスの充実を図っていきます。

サ 閲覧・貸出サービス

- ・予約資料やリクエスト資料、貸出上位ランキング等、貸出に関する情報発信を充実させます。
- ・オンライン・データベース等、紙媒体だけでは得られない情報提供の充実を図ります。
- ・ICシステムによる、貸出・返却のセルフ化を引き続き進めます。
- ・著作権法の範囲に基づく複写サービスを引き続き提供します。

シ ICT サービス

- ・蔵書検索用のパソコン、インターネット接続可能な端末を充実させます。
- ・インターネットや、館内蔵書検索用のパソコンの利用説明等、だれでも簡単に情報が引き出せるよう、利用案内を積極的に行います。
- ・電子書籍の発行が増加することを踏まえ、収集・提供する電子書籍の導入については、費用対効果を見極めながら、検討していきます。
- ・デジタル化した資料・情報を、サイネージやタブレット等で発信することを検討します。

ス その他

- ・学習室との連携で、文房具関係物販の可能性も検討していきます。
- ・レビューを設置したり、本が探しやすい、手に取りたくなる配架、見せ方に努めます。
- ・ライブラリーセンターの延床面積は、3,000 m²を基本とします。

② 資料収集方針

○市民の生涯学習を支え、地域の情報拠点、知の拠点としての役割を果たし、また、何気なくふらりと立ち寄る市民にとっての居場所としての役割を果たすため、それに資する資料の収集に取り組みます。

資料の収集にあたっては、これまでも一定の基準のもと収集を行ってきていますが、ライブラリーセンターでは、規模の課題等から充実を図ることが出来なかった分野や酒田コミュニケーションポートの基本理念・基本方針の実現のために求められる分野について、強化していきます。

ア 計画蔵書数

他自治体や県内図書館の状況等を踏まえ、次のとおり計画します。

- ・ライブラリーセンターの計画蔵書数は、約 300,000 冊とします。
- ・開架約 20 万冊、閉架約 10 万冊を目指します。ただし、居心地の良い空間づくりや企画展示スペース等とのバランスを配慮していきます。
- ・開架は、日本十進分類法に基づき資料を分かりやすく配架します。
- ・閉架書庫は、10 万冊程度収蔵可能な集密書庫⁴とします。
- ・現中央図書館及び児童図書室から移設する資料の選定、配架計画、除籍等については、今後、方針を定めていきます。

イ 資料収集のポイント

ア) 市民の財産となる地域の資料・情報の収集

- ・地域の歴史・文化・産業・教育等に留意し、市民の財産となる資料・情報を収集します。
- ・本市に関する資料は、一般に流通する図書資料だけでなく、行政機関や民間団体、個人が発行するもの（広報誌や統計資料、パンフレット、コミュニティペーパー等）についても、幅広く収集します。

⁴ 集密書庫は、収納能力を優先させた移動式書架で構成する書庫をいう。

- ・郷土資料については、図書だけでなく画像、映像、古地図、絵葉書等にも留意し、市民が郷土の歴史と文化を知るうえで貴重な資料について、可能な限り収集します。その上で、デジタル化を検討していきます。
- ・本市との交流都市や観光案内に資する資料、ガイドブック等を積極的に収集します。
- ・「鳥海山・飛島ジオパーク」に関連する資料の収集を強化し、学校等との連携により、教育・学習活動に活用できるようにします。
- ・本市ゆかりの著名人に関する資料の収集に努めます。

イ) 多様な市民ニーズに応える、新鮮で豊富な資料・情報の偏りない収集

- ・市民の教養及び生涯学習のニーズに応えるため、人文科学・社会科学・自然科学の各分野にわたり偏りなく収集します。
- ・一般書のほか、専門書、実用書、参考図書等にわたり、常に最新の情報が提供できるように収集します。
- ・生活実用書、趣味、教養に関する資料のほか、子育て、医療、介護等の資料・情報を充実させます。
- ・ビジネスやまちづくり関係の資料・情報を充実させます。
- ・思想的、宗教的、政治的な立場にとらわれることなく、市民が多様な視点から情報が得られるよう、幅広く収集します。
- ・国際交流、インバウンド対応、英語教育の強化等に対応するため、英語資料の充実を検討します。

ウ) 青少年、20代若者向け資料の充実

- ・これまで、必ずしも十分と言えなかった青少年、20代若者向けの資料について、そのニーズ等を考慮した魅力的な資料を収集します。
- ・これまでの図書館利用から遠ざかりがちな若者世代向けに、スポーツ、ファッション、音楽、芸術等の資料を充実させます。
- ・調べ学習に必要な資料や、学校図書館の蔵書を補完するような資料を、学校図書館と連携しつつ幅広く収集します。
- ・将来の進路を考えるうえで参考になる資料を収集します。
- ・漫画についてのニーズが高いため、書架スペースとのバランスに考慮しつつ、定評のあるもの、保存に耐えるもの等の方針を定め収集します。

エ) 新聞・雑誌の充実

- ・寛ぎながら時間を過ごせる場所として市民から利用してもらえるために、新聞・雑誌の充実を図ります。